

何十年後も住み続けたい山形市にするために、今、私たちにできることを提案しよう

山形市立第二中学校教諭 3 学年 伊藤 駿

実施年月日：令和 6 年 10 月 24 日 145 名

1 実践計画・指導のねらい

本単元では財政や地方自治について学ぶだけではなく、現在山形市が計画・実施している「山形発展計画 2025」の中で、課題としてあげられる人口問題にフォーカスをしていく。その中で、人口の減少が税収の減少や財政上の課題につながることに気づくように構成していく。山形市をさらに良くしていくためにはどのような政策をしたらいいのか、何十年後も住み続けるためにはどうするといったことを考えさせる。

また、教科横断的に修学旅行において函館で学んだ観光都市の在り方とも比較しながら、主体的な主権者・納税者側の視点に立つて、探究的に授業に参加する生徒を育てていきたい。持続可能な社会の担い手の育成を目指し、現代社会に見られる課題の解決を公正に判断したり、地域に住む住人・生徒などの多面的多角的な視点で考察できたりするようにしていく。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・地方自治がどのような考えに基づいて行われているのか、都道府県と市町村に分けてワークシートに整理する。 ・単元を貫く課題を捉える。	○ 地方自治にはどのような考えのもとで行われているのか ● 住民により住民のために行われている。 ● 国は広域な仕事を、地方公共団体は地域に密着している。 ● こんなに、仕事を分担しているの？ □使用教材名 ・教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） ・「山形発展計画 2025」 ・「令和 6 年度税制改正」
2	・地方議会や首長がどのように役割を果たしているのか、二元代表制の特徴を踏まえて、国の政治と比較しながらワークシートに整理する。	○ 地方自治はどのような仕組みで行われているのか ● 二元代表制が国の議院内閣制より強い権限がある。 ● 住民の声を幅広く拾える仕組みが整っている。 ● 税金には国税と地方税があるの？ □使用教材名 ・教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） ・「山形発展計画 2025」
3	・地方公共団体の財政について、それを支える収入の種類や、支出しなければならないこと、そしてその地方の課題に向けた財政の在り方について議論する。	○ 地方公共団体の財政はどのような財政の在り方で、どのような課題を抱えているのか ● 地方税は人口の多い都市部に多く、地方は少ない。 ● 近年、公債費や民生費の割合が増加している。 ● 人口の減少が財政問題に直結してくる。 ● 観光を手掛かりに、交流人口から定住人口を増やそうとしている？ □使用教材名 ・教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） ・「山形発展計画 2025」・「わたしたちの暮らしと税金」
4	・山形市役所からお招きしたゲストティーチャーから講話をいただき、山形市が捉えている現状や課題、その解決に向けた観光施策や財政とのかわりについて考える。	○ なぜ、山形市は観光振興を推進しているのか ● なぜ、いま観光振興なのか？ ● 財政が厳しい状況であるが、どこから予算を確保するのか？ ● 観光振興を推進する明確なメリットはあるのか？ ● 山形市が日本一の観光案内所をしたい、具体的なことは何か？ ● 人口減少の中で、人材の取り合いにならないのか？ □講師・使用教材 講師：「山形市 商工観光部 観光戦略課 日本一の観光案内所準備室」 使用教材：「出前講座パワーポイント」、「山形市発展計画」
5 ・ 6	・山形市が目指している「日本一の観光案内所」をどのようにするべきか、またどのような体験があると山形市に観光客が増えるのかを、山形市の課題と観光案内所の視点を踏まえて、Yチャートを作り、グループ提案をする。	○ 山形市をよりよい都市にするためにはどうすればいいのか ● いも煮を体験できるコーナーがあれば、経済効果があるのでは？ ● 伝統工芸品を作れるところがあるといい。 ● 地元の人が使うことを考えると直売所やワークスペースがあるといい。 □使用教材名 ・教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） ・「山形発展計画 2025」 ・マイクロソフトチームスによる PP

【指導のポイント】≪1 時間目≫

都道府県と市町村に分けて担っている事業をワークシートに整理することで、税金が使用される公共事業の多さに気づき、税金の重要性について理解を深めた。また、人口の減少が地方自治体で大きなポイントになっていることを理解した。

【指導のポイント】≪2 時間目≫

ベン図を用いて、国と地方の政治の比較を行うことで、明確な違いを生徒は理解することができ、話し合いで思考が深まっていた。

【指導のポイント】≪3 時間目≫

人口の減少に歯止めがかけられないことを、山形市がまとめている「山形発展計画 2025」の資料から読み取って理解を深めた。その中で、財政的な問題も抱えていることにも気づくように授業構成を仕組んだ。

【指導のポイント】≪4 時間目≫

山形市役所の方をお招きして、山形市が抱える人口問題へのアプローチについて講話をしていただいた。その中で、山形市に対して「日本一の観光案内所に必要なサービスや仕組みについて提案しよう」と課題提起された。それにより、生徒から自発探究心やさらなる思考が生まれていた。

【指導のポイント】≪5、6 時間目≫

前時で市から依頼された課題である「どんな体験があるのか」「観光案内所にどんな仕組みやサービスがあるのか」について、ワールドカフェや思考ツールを用いることで、思考が整理されたり、探究心がさらに深まっていたりした。また、講話を聞いたことで、実現可能なモノや身近なことからヒントを得ていた。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 生徒自身が住みやすい山形市を題材にして授業を仕組むことで、自身の生活に置き換えながらグループ活動を展開していた。また、財政と税金との関係性や人口が大きく関わってきたことを経済分野に入る直前にできたことで、経済分野への導入的単元の意味合いが出て良かった。
- ◎ 外部講師を招聘し、実際の施策と市が抱える課題を提案していただくことで、生徒の中で自分ごととして捉えることができたように感じる。また、市に提案するという方向になることで、自分の考えが市政に反映されるかもという期待感が湧いていた。
- ◆ 生徒の中で、外部講師への質問が積極的に行われていた。これは人口問題に生徒の意見が大きく傾いたためであると推測される。しかし、生徒たちの課題意識が財政にあった場合は、経済分野の授業を事前に実施することで、さらに生徒の思考が広がり、議論が深まると考えられる。